

熊本地震 現地レポート

所 属 市民福祉部 こども家庭課
氏 名 重田 環

1 期間 平成28年5月1日(日)から5月7日(木)の7日間

2 場所 熊本県上益城郡嘉島町

3 活動内容

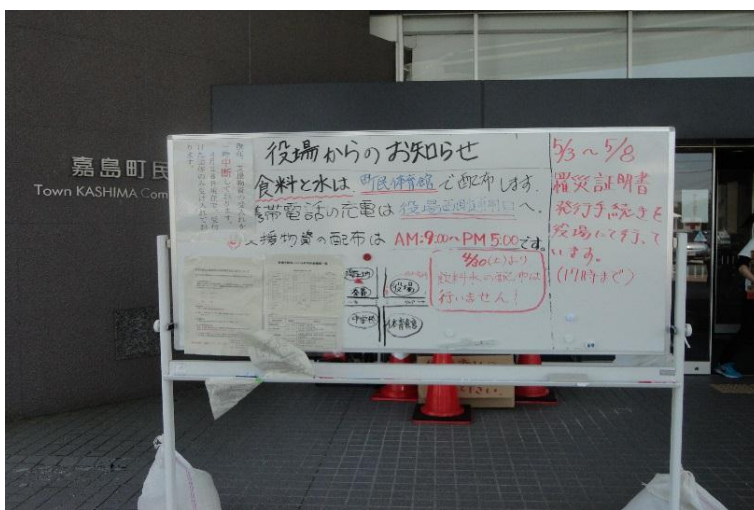
(1) 平成28年5月1日(日) 午後5時 静岡県庁にて出発式

第三陣として5時15分 大型バスにて熊本県へ出発バス内で 各自の担当が発表され、前日までの第二陣の業務報告書を供覧し各自の任務を確認した。

(2) 5月2日(月) 午前10時 嘉島町役場へ到着

嘉島町役場には 町民会館、社会福祉協議会の建物、町立体育館が隣接しており、町民会館では住民向けに、日用品を配布していた。社会福祉協議会にはボランティアセンターが設置されており、町立体育館が避難所として利用されていた。また役場駐車場には自衛隊による仮設入浴所や診察所が設営されていた。







到着後 それぞれの担当部署へ移動し、第二陣から引継ぎを受け業務開始。第二陣が12時過ぎには引き上げたため、時間的な余裕がなく、マニュアルを見ながら住民に対応する結果となった。(マニュアルは第二陣の静岡県担当者が作成したもの)

(3) 自分の担当部署での流れ

福島県・熊本県・東京都町村職員と総務課内で罹災証明の発行事務に従事した。到着当日の5月2日(月)は休日の間合とあって、罹災証明を求める人で総務課前のごったがえてしていたが、3・4・5日は閉庁していると思っている住民が多く、来庁者は少なかった。また6日金曜はシステム入れ替えのため罹災証明の発行を急遽停止することになったが、この旨も同報無線や避難所体育館で再三放送されており、やはり来庁者は少なかった。

自分が担当した数日間でも、住宅の被害認定に関する不服が日に日に多くなっており、認定調査に関する疑問や被災者生活再建支援制度に関する質問を受けることが度々あり、資料を読み込んで住民に説明する場面に迫られた。

自分は朝6時半からと、17時半以降20時まで避難所に移り、避難所運営の手伝いをした。



また 20 時半より静岡県職員全体でのミーティングがあり、各担当部署が当日の業務報告及び災害対策本部から連絡事項を受けた。

(4) 5月6日(金) 14時 嘉島町役場出発

被害の大きかった益城町をバス内から視察し静岡へむかった

(5) 5月7日(土) 6時 静岡駅到着後 解散

嘉島町は人口1万弱、役場職員も80名程度であるが、大企業・大型商業施設もあり熊本市のベッドタウンとして、年々人口が増加している。第三陣の自分たちが到着する前からライフラインは概ね復旧、近所のコンビニも営業再開しており、一見町中や道路は落ち着いている様子だった。

ただ 罹災証明発行窓口で住民に接していると14日の前震、16日の本震から2週間近くが経過し、直後の生死をさまようような切迫した状況から 今後の生活に向けた疲れ・不安がつり、さらに家屋の被害認定が進まないことへの苛立ち、また被害認定に関する不満が高まり始めているように感じた。今後5月中旬には総合窓口が設置され、支援金の申請や具体的な支援金額が提示されると、ますますの混乱も予想されそうである。

町内にはこれまで 自主防災組織もなかった模様で 避難所内の運営がすべて職員に任されており、中学生や若干の避難者のお手伝いはあるものの、食事の配膳や掃除・日用品の配布や避難者同士のトラブルの仲裁などの雑務に職員が追われていた。仮設住宅の完成は早くても5月末とのことで、避難生活が長期化するにつれ避難所運営を住民に

任せるべく計画を立てているとのことだった。近隣の河原小学校では、食料の調達・電源の確保・衛生管理・児童の保育など地域住民が自主的に避難所運営全般を担っているとのことで、県職員だけでなくNHKや海外のマスコミ（BBC）などからも取材が殺到しているとのことだった。長期化する避難生活には住民と職員との協力体制は欠かせない。